

## 再 評 価 書

箇所名	一級河川 五十鈴川	事業名	広域河川改修事業	課名	河川・砂防課
事業概要	工期 (下段：前回)	S24年～H46年	全体事業費	13,621百万円(負担率：国0.5：県0.5)	
		S24年～H46年	(下段：前回)	17,386百万円(負担率：国0.5：県0.5)	
<b>事業目的及び内容</b>					
<p><b>(事業の目的)</b></p> <p>五十鈴川は、伊勢市（人口約13万人、県内第6位）を流れる一級河川であり、沿川には伊勢神宮・派川沿川には県営サンアリーナ等があるとともに、神宮御神田など神宮周辺の自然環境も残っています。本流域では平成13年8月に5戸、平成3年9月に181戸の家屋の浸水被害が発生しています。このほかにも、昭和49年7月7日の七夕豪雨による水害など、過去度重なる水害を被っています。本事業は、五十鈴川沿川の人命や資産を洪水による浸水被害から守ることを目的に実施されているもので、掘削工及び築堤護岸工等の改修によって流下能力を確保することで、治水安全度の向上を図ります。</p> <p><b>(事業の内容)</b></p> <p>事業区間延長：13,210m</p> <p>①築堤工 21,400m、②掘削工 412,000m<sup>3</sup>、③護岸工 28,010m、④橋梁 17橋、⑤樋門・樋管 32基、⑥堰 9基、⑦用地補償 1式</p>					
<b>事業主体の再評価結果</b>					
<p><b>1 再評価を行った理由</b></p> <p>前回の再評価実施後、一定期間が経過し、事業継続中であることから三重県公共事業再評価実施要項第2条（3）に基づき再評価を行いました。</p>					
<p><b>2 事業の進捗状況と今後の見込み</b></p> <p><b>2.1 事業の進捗状況と今後の見込み</b></p> <p>①事業採択の着手（用地取得開始、工事着手）：昭和24年度</p> <p>②五十鈴川本川（L=6640m）の状況</p> <p style="padding-left: 20px;">下流～鹿海工区、楠部～宇治工区の計4340m：平成9年度までに完成</p> <p style="padding-left: 20px;">楠部工区（L=900m）：現在事業進捗中、昨年度までに橋梁の架替えを完了</p> <p>③五十鈴川派川（L=4650m）の状況</p> <p style="padding-left: 20px;">五十鈴川分流点から約1,900m：平成18年度までに完成</p> <p>④朝熊川（L=1920m）の状況</p> <p style="padding-left: 20px;">全区間：平成12年度まで完成</p> <p><b>2.2 現在の事業進捗</b></p> <p>平成25年度までに事業費ベースで58%（工事費56%、用地費70%）完了予定。</p> <p>※現段階では、平成46年度に整備完了見込みです。</p>					
<p><b>3 事業を巡る社会経済状況等の変化</b></p> <p>流域には国道23号・国道42号・伊勢二見鳥羽ライン・JR参宮線・近鉄鳥羽線等のこの地方の根幹をなす交通網の拠点があるなど、伊勢市を中心とした地域の社会・経済・文化の基盤をなしています。</p> <p>県管理区間上流には伊勢神宮があり、周辺の豊かな自然環境が残っています。伊勢神宮には、数々の重要な文化財が存在するほか、本年は原則20年ごとに行われる正遷宮に当たる年となっており、観光客の増加も見込まれています。</p> <p>このような状況から、河川の整備を継続実施し、治水安全度の向上を図ることが必要です。</p>					

#### 4 費用対効果分析と要因の変化、地元の意向の変化等

##### 4-1 費用対効果分析

○平成 25 年度 費用対効果分析結果（適用：H17 年 治水経済調査マニュアル）

総便益/総費用 B/C = 659.71 億円 / 450.48 億円 = 1.46

※総便益 = 年便益の総和(現在価値化) + 残存価値(現在価値化)

※総費用 = 全体事業費(現在価値化) + 維持管理費(事業費の 0.5%現在価値分)

○B/C 低下の要因：

社会的割引率の取り扱い方の見直し（評価時点以前，以後に係らず評価時点の価値に割引補正）。

資産については基礎データの精度向上によって、被害額が減少。

##### 4-2 その他効果

- ・伊勢神宮は神社本庁の本宗とされていることもあって、建物のほかにも、国宝・重要文化財等が多数所有されています。河川整備によって、これら文化財に対する被害を防止することが出来ます。
- ・鉄道（JR、近鉄）や国道、県道にかかる橋梁など、三重県を南北に結ぶ重要な交通網が横断しており、これらの安全を確保することに役立ちます。
- ・河川周辺には、伊勢市防災マップによる避難所が存在することから、これらの安全を確保することが可能となります。

##### 4-3 地元意向

宮川水系治水事業促進期成同盟会が結成されており、地域からも早期の改修完了が望まれています。

#### 5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

##### 5-1 コスト縮減

- ①五十鈴川本川橋部工区（事業進行中）は、当初、左右岸引堤予定でしたが、地元合意のもと、現況施設（堤防・護岸）を有効活用できる片岸引堤に見直し、事業を進めています。
- ②建設副産物（発生土、再生 As、再生碎石）などを積極的に利用します。
- ③護岸工法の比較検討、工事における新技術の採用を適宜実施することで、経済性に配慮します。

##### 5-2 代替案

河川の改修計画の手法に対する代替案には、『ダム案』、『遊水地・調整池案』などがあります。これらに関する対応は次のようです。過去から河川改修を進めてきた実績もあることから、河道改修が妥当と考えています。

② 『ダム案』 流域の大部分が平地であり、ダムの適地はありません。

② 『遊水地・調整池案』 遊水地・調整池による洪水調節では広大な敷地が必要となります。このため沿川に広がる広大な農地を犠牲にすることになり、遊水地・調整池の設置に必要な用地取得が困難です。

#### 再 評 価 の 経 緯

##### 事業再評価の経緯

過去に 3 回の事業再評価を行っています（平成 10 年度、平成 15 年度、平成 20 年度）。

##### 再評価の結果

事業の継続について了承を得て、事業が継続されています。

#### 事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱 5 条第 1 項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。

# 位置図



流域面積 73km<sup>2</sup>  
 流路延長 20km

